

追加情報

- ・本書では、操作設定編に追加する情報を記載しています。本機に付属の取扱説明書 操作設定編とあわせてお読みください。
- ・お使いの機種によっては、説明の画面とカメラの画面が異なる場合があります。
- ・本書では製品品番の一部（WV-）を省略している場合があります。
- ・本書は以下の機種を対象にしています。
WV-S8531NJ、WV-X8571NJ

・ソフトウェア Ver.1.50

No.	機能	対応画面（ページ）	記載ページ
1	〔SNMPトラップ設定〕に「お知らせ」を追加	ネットワーク-アドバンス	2ページ
2	録画ストリームの書き込み失敗時のシステムログを追加	メンテナンス-ステータス	3ページ
3	録画ストリームの書き込み失敗を独自アラームで通知する機能を追加	アラーム-通知	4ページ
4	録画ストリームのビットレートに推奨値を超えた値を設定したときの注記を追加	映像／音声-映像	5ページ
5	「ネットワーク」のIPv4ネットワークの〔接続モード〕の初期値とDHCPの動作仕様を変更	ネットワーク	6ページ
6	「ネットワーク」にONVIF設定を追加	ネットワーク	7ページ
7	「ネットワーク」の「アドバンス」に〔SRTP〕設定を追加	ネットワーク-アドバンス	8ページ
8	メール通知先の認証パスワードを拡張	ネットワーク-アドバンス	9ページ

・ソフトウェア Ver.1.60

No.	機能	対応画面（ページ）	記載ページ
9	SDメモリーカードの「上書き」の初期値をOnに変更	基本-SDメモリーカード	10ページ
10	インターネットモードのOn/Offの補足説明を設定画面に追加	映像／音声-映像	11ページ
11	NTPテスト機能を追加	ネットワーク-アドバンス	12ページ
12	HTTPSにTLS設定を追加	ネットワーク-アドバンス	13ページ
13	MQTT機能に対応	ネットワーク-アドバンス	14ページ
14	MQTT機能の失敗時にシステムログを追加	メンテナンス-ステータス	17ページ

1. [SNMPトラップ設定] に「お知らせ」を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク])

–ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] –SNMPを設定する)

[SNMPトラップ設定] に「お知らせ」を追加しました。

お知らせ

- アラーム発生時のSNMPトラップ通知を動作させるためには、アラーム動作の設定が必要です。
アラーム動作に関する設定を行うには、取扱説明書の操作・設定編の「アラーム設定を行う [アラーム]」を参照してください。

2. 録画ストリームの書き込み失敗時のシステムログを追加

(取扱説明書 操作・設定編 本機のメンテナンスを行う [メンテナンス]

–ステータスを確認する [ステータス])

SD メモリーカードに関するログに録画ストリームのライト処理で異常が発生した場合のシステムログを追加しました。

分類	表示内容	内容詳細
SDメモリーカード	<SD>フォーマット	SD メモリーカードのフォーマットに成功しました。
	<SD>フォーマットエラー	SD メモリーカードのフォーマットでエラーが発生しました。
	<SD>ライトプロテクト	ライトプロテクトされた SD メモリーカードが挿入されました。
	<SD>認識エラー	SD メモリーカードを正しく認識できません。
	<SD>ライトエラー	SD メモリーカードのライト処理でエラーが発生しました。
	<SD>リードエラー	SD メモリーカードのリード処理でエラーが発生しました。
	<SD>削除エラー	SD メモリーカードの削除処理でエラーが発生しました。
	<SD>ファイルシステムエラー	SD メモリーカードのファイルシステムでエラーが発生しました。
	<SD>その他エラー	SD メモリーカードで上記以外のエラーが発生しました。
	<SD> SDメモリーカード録画の連続性に異常が起きています。SDメモリーカードへの録画ビットレート設定をご確認ください。	SD メモリーカードのライト処理でデータの欠落が発生しました。
<SD> SDメモリーカードに異常が起きています。SDメモリーカードの状態をご確認ください。	SD メモリーカードのライト処理でデータの欠落が発生し続けています。SDメモリーカードが正しく認識されているかをご確認ください。 認識されていない場合には、本機の電源を再起動するか、SDメモリーカードを一度抜いてから改めて挿入してご確認ください。	

3. 録画ストリームの書き込み失敗を独自アラームで通知する機能を追加

(取扱説明書 操作・設定編 アラーム設定を行う [アラーム])

–アラーム通知に関する設定を行う [通知] –独自アラーム通知について設定する)

「診断」の独自アラーム通知の発生条件に、録画ストリームのライト処理異常を追加しました。

独自アラーム通知

● [独自アラーム通知]

以下の場合に独自アラーム通知を行うかどうかを On/Off で設定します。

- アラーム発生時 (独自アラーム通知先「アラーム」欄)
- SD メモリーカード残容量通知時 (独自アラーム通知先「診断」欄)
- SD メモリーカードの空き容量不足時 (独自アラーム通知先「診断」欄)
- SD メモリーカードの認識エラー時 (独自アラーム通知先「診断」欄)
- SD メモリーカードの書き込みエラー時 (独自アラーム通知先「診断」欄)

初期設定 : Off

独自アラーム通知先

● [通知先 1] ~ [通知先 8]

独自アラーム通知先を IP アドレスまたはホスト名で設定します。通知先は 8 件まで設定できます。

「アラーム」欄 : チェックを入れると、アラーム発生時、通知します。

「診断」欄 : チェックを入れると、SD メモリーカードの残容量通知、SD メモリーカードの空き容量不足、SD メモリーカード認識エラー、SD メモリーカード書き込みエラーを通知します。

「通知先アドレス」欄 : 通知先の IP アドレスまたはホスト名を入力します。

入力可能文字 : 半角英数字、半角記号「:」「.」「_」「-」

設定した通知先を削除したいときは、削除したい通知先の [削除] ボタンをクリックします。

4. 録画ストリームのビットレートに推奨値を超えた値を設定したときの注記を追加

(取扱説明書 操作・設定編 画像・音声に関する設定を行う [映像/音声]

–ストリームに関する設定を行う [映像])

「1 クライアントあたりのビットレート *」の「お知らせ」に、推奨値を超えたビットレートを設定した場合、SD メモリーカード録画の連続性に異常が発生する可能性がある旨を追記しました。

[1 クライアントあたりのビットレート *]

お知らせ

- ストリームのビットレートは、ネットワークページの [ネットワーク] タブにある「配信量制御 (ビットレート)」に制限されます。そのため「*」付きの値を設定した場合は、映像が配信されない場合があります。
- ストリームのビットレートは、2048kbps 以下の設定をおすすめします。2048kbps より大きい値を設定した場合は、録画映像の連続性に異常が発生する可能性があります。
- リフレッシュ間隔が短い場合、被写体によっては設定したビットレートを超過することがあります。
- 同時接続するユーザー数、または、使用する機能の組み合わせによっては、設定した値よりもビットレートが低下することがあります。設定後に、配信映像をご確認ください。

5. 「ネットワーク」のIPv4ネットワークの[接続モード]の初期値とDHCPの動作仕様を変更

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク]
-ネットワークを設定する [ネットワーク])

「ネットワーク」のIPv4ネットワークの[接続モード]の初期値とDHCPの動作仕様を変更しました。

IPv4ネットワーク	
接続モード	DHCP
IPアドレス(IPv4)	192 . 168 . 0 . 10
サブネットマスク	255 . 255 . 255 . 0
デフォルトゲートウェイ	192 . 168 . 0 . 1
DNS	<input checked="" type="radio"/> Auto <input type="radio"/> Manual
プライマリーサーバーアドレス	0 . 0 . 0 . 0
セカンダリーサーバーアドレス	0 . 0 . 0 . 0

IPv4ネットワーク

【接続モード】

IPアドレスの設定方法を選択します。

固定IP : IPアドレスを「IPアドレス(IPv4)」に入力して設定します。

DHCP : DHCP機能を使用してIPアドレスを設定します。

DHCPサーバーからIPアドレスを取得できない場合は、IPアドレスを192.168.0.10に設定します。

その後に、DHCPサーバーからIPアドレスを取得した場合には、そのIPアドレスに変更します。

自動設定(AutoIP) : DHCP機能を使用してIPアドレスを設定します。DHCPサーバーが見つからない場合は、自動でIPアドレスを設定します。

自動設定(おまかせ) : DHCP機能を利用してネットワークアドレス情報を参照し、使用していないIPアドレスを固定IPアドレスとしてカメラへ設定します。設定されるIPアドレスはサブネットマスクの範囲内でカメラが自動で決定します。DHCPサーバーが見つからない場合は、IPアドレスを192.168.0.10に設定します。

初期設定 : DHCP

6. 「ネットワーク」にONVIF設定を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク]
-ネットワークを設定する [ネットワーク])

「ネットワーク」にONVIFの設定を追加しました。

ネットワーク		アドバンス		
IPv4ネットワーク				
接続モード	DHCP			
IPアドレス(IPv4)	192	168	0	10
サブネットマスク	255	255	255	0
デフォルトゲートウェイ	192	168	0	1
DNS	<input type="radio"/> Auto <input checked="" type="radio"/> Manual			
プライマリーサーバーアドレス	0	0	0	0
セカンダリーサーバーアドレス	0	0	0	0
IPv6ネットワーク				
手動設定	<input checked="" type="radio"/> On <input type="radio"/> Off			
IPアドレス(IPv6)				
デフォルトゲートウェイ				
DHCPv6	<input checked="" type="radio"/> On <input type="radio"/> Off			
DNSプライマリーサーバーアドレス				
DNSセカンダリーサーバーアドレス				
IPv6/v4共通				
HTTPポート番号	80	(1-65535)		
通信速度	Auto			
RTPパケット 最大送信サイズ	<input checked="" type="radio"/> 制限なし(1500byte) <input type="radio"/> 制限あり(1280byte)			
HTTPの最大セグメントサイズ	制限なし(1460byte)			
配信量制御 (ビットレート)	51200kbps			
IP簡単設定有効期間	<input type="radio"/> 20分間 <input checked="" type="radio"/> 無制限			
カメラへのFTPアクセス	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止			
ONVIF® ※ONVIFは、ONVIF,Inc.の商標です。	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効			

設 定

• [ONVIF®]

ONVIFの有効/無効を設定します。

有効 : ONVIF 機器からのアクセスが有効になります。

無効 : ONVIF 機器からのアクセスができなくなります。

初期値: 有効

※ONVIFはONVIF,Inc. の商標です。

7. 「ネットワーク」の「アドバンス」にSRTP設定を追加 (取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク] -ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス])

「ネットワーク」の「アドバンス」にSRTP設定を追加しました。

SRTP (Secure Real-time Transport Protocol) は、音声や動画などのデータをリアルタイムに再生するためのプロトコル「RTP (Real-time Transport Protocol)」を暗号化することができ、通信の安全性を高めることができます。



• [SRTP]

SRTPの有効/無効を設定します。

有効：SRTPに対応するクライアントでのSRTP配信が可能になります。

無効：SRTPに対応するクライアントでのSRTP配信ができなくなります。

初期値:無効

お知らせ

- SRTPを「有効」に設定した場合でも、RTPの配信も可能です。
- SRTPで接続可能なクライアントの情報は弊社サポートウェブサイトに掲載されています。
<https://sol.panasonic.biz/security/support/info.html> <管理番号：C0318>

8. メール通知先の認証パスワードを拡張

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク] - ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] - メール送信について設定する)

メール通知先の認証用パスワードについて入力可能文字数を 128 文字に拡張しました。

- **【認証-パスワード】**

サーバーにアクセスするパスワードを入力します。

入力可能文字数：0～128 文字

入力不可文字：全角、半角記号「"」「&」

9. SDメモリーカードの「上書き」の初期値を On に変更

(取扱説明書 操作・設定編 本機の基本設定を行う [基本] -SDメモリーカードを設定する [SDメモリーカード])

【上書き】

SDメモリーカードの空き容量が少なくなったときに、画像を上書きして保存するかどうかを設定します。

- On: SDメモリーカードの空き容量が少なくなった場合、古い画像から上書きして繰り返し保存します。
- Off: SDメモリーカードの空き容量がなくなった場合、SDメモリーカードへの保存を停止します。

初期設定 : On

10. インターネットモードの On/Off の補足説明を設定画面に追加

(取扱説明書 操作・設定編 画像・音声に関する設定を行う [映像/音声] –ストリームに関する設定を行う [映像])

インターネットモード設定の On/Off の補足説明を追記しました。

ストリーム(1)	
ストリーム配信	カメラ 1 <input checked="" type="radio"/> On <input type="radio"/> Off
	カメラ 2 <input checked="" type="radio"/> On <input type="radio"/> Off
	カメラ 3 <input checked="" type="radio"/> On <input type="radio"/> Off
	カメラ 4 <input checked="" type="radio"/> On <input type="radio"/> Off
圧縮方式	<input checked="" type="radio"/> H.265 <input type="radio"/> H.264
インターネットモード	<input checked="" type="radio"/> On <input type="radio"/> Off ※「On」に設定すると、HTTPポートを使用してストリームを配信します。 「Off」に設定すると、UDPポートを使用してストリームを配信します。

[インターネットモード]

H.265（または H.264）画像をインターネット経由で配信する場合に選択します。ブロードバンドルーターの設定を JPEG 画像配信時と同じ設定のままでストリームを配信することができます。

- **On** : HTTP ポートを使用して H.265（または H.264）画像、音声を配信します。HTTP ポート番号の設定については「ネットワークを設定する[ネットワーク]」の「IPv6/v4 共通」をお読みください。
- **Off** : UDP ポートを使用して H.265（または H.264）画像、音声を配信します。

初期設定 : On

お知らせ

- 「On」に設定すると、配信方式は「ユニキャスト(ポート番号設定:オート)」に制限されます。
- 「On」に設定すると、ストリームの画像が表示されるまでに数秒かかります。
- 「On」に設定すると、本機に同時にアクセスするユーザー数や音声データの有無などによっては、ストリームの画像が表示されない場合があります。
- 「On」に設定すると、IPv4 アクセスのみに制限されます。
- 本設定はカメラ 1、2、3、4 で共通です。

11. NTP テスト機能を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク]
–ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] –NTP サーバーを設定する)

NTP サーバーと通信できるかを確認する為、時刻同期のテスト機能を追加しました。

ネットワーク		アドバンス	
SMTP(メール) NTP UPnP HTTPS DDNS SNMP QoS SRTP MQTT			
NTP			
時刻調整	<input checked="" type="radio"/> マニュアルセッティング	<input type="radio"/> NTPサーバーに同期	
NTPサーバーアドレス取得方法	Manual		
NTPサーバーアドレス	入力例: 192.168.0.10		
ポート番号	123	(1-65535)	
時刻更新間隔	1h		
NTPテスト	実行		
設定			

[NTP テスト]

「時刻調整」を「NTP サーバーに同期」を選択し、NTP サーバー情報を設定後に「実行」ボタンをクリックしてください。NTP サーバーと通信し、時刻同期を実施し、NTP 動作の確認をすることができます。

お知らせ

- ・NTP テストに成功すると、「NTP 時刻補正に成功しました。」を表示します。
- ・NTP テストに失敗すると、「NTP 時刻補正に失敗しました。」を表示します。
- ・「時刻調整」が「マニュアルセッティング」に設定している場合は、NTP テストの「実行」ボタンはグレー表示されます。
- ・「時刻調整」が、「NTP サーバーに同期」に設定されている場合で、NTP サーバーアドレスが設定されていない場合には、NTP テストの「実行」ボタンはグレーアウト表示されます。

12. HTTPS に TLS 設定を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク]
–ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] –HTTPSを設定する)

HTTPS の接続方法に TLS1.1, TLS1.2, TLS1.3 の選択項目を追加しました。

ネットワーク		アドバンス	
SMTP(メール) NTP UPnP HTTPS DDNS SNMP QoS SRTP MQTT			
HTTPS			
接続方法	HTTP	接続方法を「HTTPS」に設定すると、最大配信量が32Mbpsに制限されます。	
	<input checked="" type="checkbox"/> TLS1.1	<input checked="" type="checkbox"/> TLS1.2	<input checked="" type="checkbox"/> TLS1.3
証明書の選択	プリインストール		
HTTPSポート番号	443	(1-65535)	
プリインストール証明書			
ルート証明書取得	実行		
CA証明書			
CRT鍵生成	実行		
署名リクエスト(CSR)生成	実行		
CA証明書インストール	ファイルを選択 選択されていません		実行
情報	無効	確認	削除
設定			

[HTTPS-接続方法]

本機への接続方法を設定します。

HTTP : HTTP と HTTPS 接続が可能になります。

HTTPS : HTTPS 接続のみ可能になります。

初期設定 : HTTP

HTTPSを選択した場合に使用するTLSを選択します。

- **TLS1.1**:有効/無効を設定します。
- **TLS1.2、TLS1.3** :常に有効で、無効に設定することはできません。

初期設定 : **TLS1.1**:無効、**TLS1.2**:有効、**TSL1.3**:有効

お知らせ

- HTTP選択時に、HTTPS接続するには、最初にHTTPS接続設定を行ってください。その後、HTTPに設定変更した場合でも、HTTPS接続が可能となります。

13. MQTT 機能を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク]
-ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス])

MQTT (Message Queueing Telemetry Transport) を「ネットワーク」の「アドバンス」に追加しました。アラームが発生した時に、MQTT サーバーにアラームによるイベント動作を通知することができます。

The screenshot shows the MQTT configuration page. At the top, there are tabs for 'ネットワーク' (Network) and 'アドバンス' (Advanced), with 'アドバンス' selected. Below the tabs, there are links for 'SMTP(メール)', 'NTP', 'UPnP', 'HTTPS', 'DDNS', 'SNMP', 'QoS', 'SRTP', and 'MQTT' (highlighted in a red box). The main content area is divided into several sections:

- MQTT設定**: A toggle switch for 'MQTT設定' is set to 'Off'.
- サーバー**: Fields for 'アドレス' (Address), 'ポート' (Port: 8883), 'プロトコル' (Protocol: MQTT over SSL), 'ユーザー名' (Username), and 'パスワード' (Password).
- ルートCA証明書**: 'インストール' (Install) button with a file selection field, '情報' (Info) button, and 'サーバー証明書検証' (Server Certificate Verification) toggle set to '有効' (Enabled).
- 通知設定**: '有効/無効' (Enabled/Disabled) toggle and '通知文字列' (Notification String) section.
- アラーム**: A table of alarm notification settings with columns for '端子' (Terminal), 'トピック' (Topic), 'ペイロード' (Payload), 'QoS', and 'Retain'.

端子	トピック	ペイロード	QoS	Retain
端子 1	PRO/NetworkCamera/Alarm/Terminal	terminal alarm 1	1	Retain
端子 2	PRO/NetworkCamera/Alarm/Terminal	terminal alarm 2	1	Retain
端子 3	PRO/NetworkCamera/Alarm/Terminal	terminal alarm 3	1	Retain
動作検知	PRO/NetworkCamera/Alarm/VideoMo	video alarm	1	Retain
コマンドアラーム	PRO/NetworkCamera/Alarm/Command	cmd	1	Retain

[MQTT 設定]

MQTT 機能を有効にするかどうかを On/Off で設定します。

On に設定した場合、または、カメラの起動時に On の場合、設定されたサーバーに接続します。

設定したアラームが発生した場合に、設定内容をサーバーに通知します。

初期設定 : Off

サーバー

[アドレス]

アラーム発生時に通知する MQTT サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

入力可能文字数：1～128 文字

入力可能文字：半角英数字、半角記号「:」「.」「_」「-」

初期設定：なし（空白）

[ポート番号]

MQTT サーバーのポート番号を入力します。

設定可能ポート番号：1～65535

初期設定：8883

以下のポート番号は、本機で使用していますので設定できません。

20、21、23、25、42、53、67、68、69、80、110、123、161、162、443、554、995、10669、10670、

[プロトコル]

MQTT サーバーとの接続で使用するプロトコルを MQTT over SSL/MQTT over TCP から選択します。

初期設定：MQTT over SSL

[ユーザー名]

MQTT サーバーにアクセスするユーザー名を入力します。

入力可能文字数：0～32 文字

入力不可文字：全角、半角記号「"」「&」「:」「;」「¥」

[パスワード]

MQTT サーバーにアクセスするパスワードを入力します。

入力可能文字数：0～32 文字

入力不可文字：全角、半角記号「"」「&」

ルート CA 証明書

[インストール]

証明機関から発行されたルート CA 証明書のインストールを行います

[ファイルを選択] ボタンをクリックすると表示される「ファイルを開くダイアログ」で、認証機関から発行されたルート CA 証明書のファイルを選択し、[実行] ボタンをクリックするとルート CA 証明書のインストールが実行されます。

ルート CA 証明書のデータ形式は、PEM 形式または、DER 形式になります。

[情報]

ルート CA 証明書の情報が表示されます。

無効：ルート CA 証明書がインストールされていない

ルート CA 証明書のホスト名：インストール済みの場合に表示

[確認] ボタンをクリックすると、ルート CA 証明書の詳細を確認できます。

[削除] ボタンをクリックすると、インストールしたルート CA 証明書を削除します。

[サーバー証明書検証]

[プロトコル]に「MQTT over SSL」を選択し、[サーバー証明書検証]が「有効」の場合、SSL 接続時に登録されているルート CA 証明書を用いて、サーバー証明書の検証を行います。

初期設定：有効

お知らせ

・[サーバー証明書検証] が「有効」の場合は、ルート CA 証明書をインストールしてください。

通知設定

[アラーム]

MQTT サーバーに通知するアラームイベントをチェックします。

端子 1 : 端子 1 にアラーム発生した時に MQTT サーバーに通知します。

端子 2 : 端子 2 にアラーム発生した時に MQTT サーバーに通知します。

端子 3 : 端子 3 にアラーム発生した時に MQTT サーバーに通知します。

動作検知 : 動作検知が発生した時に MQTT サーバーに通知します。

コマンドアラーム : コマンドアラームが入力された時に MQTT サーバーに通知します。

[トピック]

送信する MQTT トピック名を設定します。トピックは「/」で区切られた階層構造になっています。

入力可能文字数 : 1~128 文字

入力可能文字 : 半角英数、半角記号

入力禁止文字 : 半角記号「¥」

初期設定 :

端子 1 : i-PRO/NetworkCamera/Alarm/Terminal/1

端子 2 : i-PRO/NetworkCamera/Alarm/Terminal/2

端子 3 : i-PRO/NetworkCamera/Alarm/Terminal/3

動作検知 : i-PRO/NetworkCamera/Alarm/VideoMotionDetection

コマンドアラーム : i-PRO/NetworkCamera/Alarm/Command

[ペイロード]

MQTT メッセージペイロードを設定します。

入力可能文字数 : 1~128 文字

入力可能文字 : 半角英数、半角記号

入力禁止文字 : 半角記号「¥」

初期設定 :

端子 1 : terminal alarm 1

端子 2 : terminal alarm 2

端子 3 : terminal alarm 3

動作検知 : VMD alarm

コマンドアラーム : cmd

[QoS]

QoS のレベルを 0, 1, 2 から選択します。0<1<2 と通信品質が高くなります。

0 : QoS0 でメッセージは最高 1 回配信されます。メッセージがサーバーに届くかは保証されません。

1 : QoS1 でメッセージは最低 1 回配信されます。メッセージが送信先に届くことが保証されるが重複して届く可能性があります。

2 : QoS2 でメッセージは正確に 1 回配信されます。メッセージが過不足なく 1 回のみ到着することが保証されます。

初期設定 : 1

[Retain]

最後に通知したメッセージを MQTT サーバーに保存させる場合にはチェックを入れます。

初期設定 : チェックなし

14. MQTT 機能の失敗時にシステムログを追加

(取扱説明書 操作・設定編 システムログ表示について)

MQTT 機能で異常が発生した場合のシステムログを追加しました。

MQTT に関するエラー表示

分類	表示内容	内容詳細
MQTT	<MQTT>接続エラー	サーバーとの接続に失敗、証明書検証失敗、または切断された場合(ただし設定変更によるカメラからの切断は除く)
	<MQTT>通知エラー	サーバーへの Publish が失敗した場合